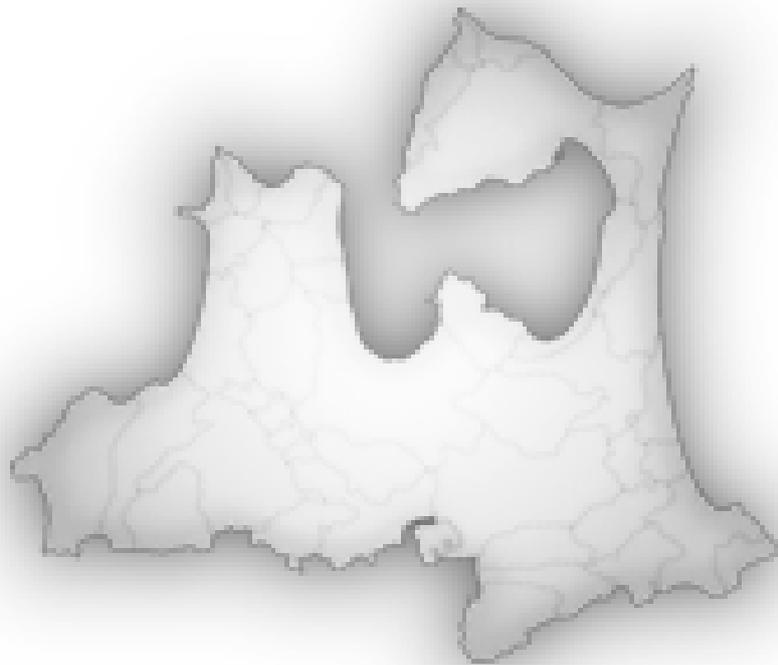


基礎・基本の定着と 活用力向上のために

平成29年度全国学力・学習状況調査
本県の結果と今後の対策
【中学校】



平成29年11月30日
青森県教育庁学校教育課

* 本報告書の活用に当たって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものである。

また、本報告書の活用に当たっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたい。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、すべての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『平成29年度全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（CD-ROM版）を参照していただきたい。

さらに、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」がアップされているので、併せて活用していただきたい。

* 本報告書の用語や記号等について *

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用している。

「全国比」

: 「今年度の本県の平均正答（回答）率－今年度の全国の平均正答（回答）率」の式で求めた値。本県が全国を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示している。

「前年度県比」

: 「今年度の本県の回答率－平成28年度の本県の回答率」の式で求めた値。今年度が平成28年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示している。

「□」: 概況を示す。

「▼」: 課題を示す。

「◆」: 今後の方向性や対策・指導等を示す。

「数字」: 本県の正答率が、対比している値に対して5ポイント以上下回っていることを示す。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査
本県の結果と今後の対策【中学校】

目 次

I 国語A「主として知識に関する問題」	1
1 科目全体の結果	1
2 分類・区分別の結果と今後の対策	1
3 設問（小問）別の結果と今後の対策	2
4 国語Aに関する調査と質問紙調査との相関	5
II 国語B「主として活用に関する問題」	6
1 科目全体の結果	6
2 分類・区分別の結果と今後の対策	6
3 設問（小問）別の結果と今後の対策	7
4 国語Bに関する調査と質問紙調査との相関	8
＜平成28年度県学習状況調査を踏まえて（国語）＞	10
III 数学A「主として知識に関する問題」	11
1 科目全体の結果	11
2 分類・区分別の結果と今後の対策	11
3 設問（小問）別の結果と今後の対策	11
4 数学Aに関する調査と質問紙調査との相関	17
IV 数学B「主として活用に関する問題」	18
1 科目全体の結果	18
2 分類・区分別の結果と今後の対策	18
3 設問（小問）別の結果と今後の対策	19
4 数学Bに関する調査と質問紙調査との相関	23
＜平成28年度県学習状況調査を踏まえて（数学）＞	24
V 質問紙調査	25
1 生徒質問紙調査の結果と今後の対策	25
2 学校質問紙調査の結果と今後の対策	30

平成29年度全国学力・学習状況調査
本 県 の 結 果 と 今 後 の 対 策
【 中 学 校 】

I 国語A「主として知識に関する問題」

1 科目全体の結果

国語A全体の平均正答率 (%)		
青森県	全国比	前年度全国比
78	+1	±0

- 国語A全体としては、本県は、全国と同程度である。
- ◆ 基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせるために、国語の授業では次の点に留意して指導する。

基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせるために

- 学習指導要領の指導事項に基づき、単元や単位時間ごとに生徒に付けたい力をより明確にした授業づくりを進める。
- 授業のねらいや付けたい力に応じて適切な言語活動を設定するとともに、学習過程を工夫したり、個に応じた指導や評価を行ったりする。
- 授業において、課題に対して見通しを持たせることで、主体的に課題を解決する姿勢を身に付けさせるとともに、まとめと振り返りの場面を設定し、何を学んだか、何ができるようになったか等を明らかにさせ、次の学習活動につながるようにする。

2 分類・区分別の結果と今後の対策

分 類	区 分	平均正答率 (%)		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	73.1	-2.3	-1.5
	書くこと	85.4	-0.3	+0.7
	読むこと	72.3	-1.5	-1.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.9	+1.7	+2.2
評価の観点	話す・聞く能力	73.1	-2.3	-1.5
	書く能力	85.4	-0.3	+0.7
	読む能力	72.3	-1.5	-1.2
	言語についての知識・理解・技能	78.9	+1.7	+2.2

- 本県は、学習指導要領の領域別では、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国と同程度であり、「話すこと・聞くこと」が全国よりやや下回っている。
- ▼ 学習指導要領の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域において、指導の充実を図る必要がある。

- ◆ 「話すこと・聞くこと」、「読むこと」領域の指導改善のために、次の点に留意して指導する。

「話すこと・聞くこと」、「読むこと」領域の指導改善のために

【話すこと・聞くこと】

○相手や場を意識して話す力を身に付けるために、第1学年では相手の反応を踏まえながら話すこと、第2学年では異なる立場や考えを想定して話すこと、第3学年では場の状況や相手の様子に応じて話すことなどについて指導するとともに、相手に分かりやすい語句を選択して話すように指導する。その際、事前に想定した話し方や内容だけでなく、うなずきや表情などという相手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉えて話すように指導する。また、相手に自分の意図が十分に伝わっていないと感じられたときには、分かりやすい語句に言い換えたり補足したりするように指導する。話した後には、話し方や内容が適切であったかどうかについて相手に尋ねたり、記録した動画を見たりして話し手と聞き手の両方の立場から振り返るように指導する。

【読むこと】

○目的に応じて一つ一つの叙述の意味を捉える力を身に付けるために、着目した語句や文が含まれる文章を読んで考えるだけでなく、文章の中の時間的、空間的な場面の展開などに注意して文章全体を踏まえて考えるように指導する。その際、生徒の実態に応じて、話の展開に注意して読むとはどういうことなのかについて、文章の具体的な内容を取り上げながら指導する。

(『平成29年度全国学力・学習状況調査報告書【中学校国語】』p.9 参照)

3 設問（小問）別の結果と今後の対策

(1) 全国平均との比較（全国の平均正答率よりも概ね1ポイント以上低い問題）

問題番号	問題の概要	平均正答率 (%)	
		青森県	全国比
2一	スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する	86.7	-1.1
2二	スピーチの構成を説明したものととして適切なものを選択する	76.9	-2.7
4一	見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する	76.8	-4.2
4二	文章について説明したものととして適切なものを選択する	71.5	-1.4
5一	〈立候補者から〉の欄の書き方を説明したものととして適切なものを選択する	77.5	-2.3
7一	先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す	50.7	-3.3
7二	結論にたどり着いた理由として適切なものを選択する	78.0	-2.4
8二	二人の交流の様子について説明したものととして適切なものを選択する	70.9	-1.4
9三ウ	適切な敬語を選択する（先生もこの書店をよくご利用になるのですね）	82.9	-2.8
9六1	楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する	42.6	-7.0
9六2	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	60.2	-3.5

972	「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択する	76.5	-2.0
-----	--------------------------	------	------

①概況及び課題

- 全国を1ポイント以上下回っている上記12問中、「話すこと・聞くこと」領域の問題が4問（2一、2二、7一、7二）、「書くこと」領域の問題が1問（5一）、「読むこと」領域の問題が3問（4一、4二、8二）、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が4問（9三ウ、9六1、9六2、9七2）で、7一は短答式、その他はすべて選択式の問題である。
- ▼ 下回っている小問のうち、「話すこと・聞くこと」領域、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が各4問である。「話すこと・聞くこと」の指導においては、社会生活の中から題材をとり、実際の場面を想定した学習活動を設定する等、日常生活との関連を意識させるような授業づくりが必要である。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導においては、伝統的な言語文化に親しませるとともに、書写に関する知識・技能を育成するための授業づくりが必要である。

②今後の対策・指導

- ◆ スピーチやプレゼンテーションをする際には、目的や相手に応じて資料や機器などを効果的に活用して話すように指導する。その際、資料や機器などを活用するのは、話の要点を明らかにし、聞き手に分かりやすくするためであることを確認する。
- ◆ スピーチをする際には、事実と意見との関係に注意して、話を構成するように指導する。また、スピーチの後に、事実と意見がそれぞれ明確に伝わったかどうかを振り返る場面を設定する。
- ◆ インタビューなどを通して情報を集める際には、目的や内容を明確にした上で、相手に分かりやすく伝わるように語句を選んで話すように指導する。その際、相手の反応を踏まえて、自分の話し方について検討するような場面を設定する。
- ◆ 話したり話し合ったりするための材料を集める際には、目的に応じて、様々な資料を有する学校図書館等の施設を利用するように指導する。また、人との交流を通して材料を集める際には、目的を明確にした上でどのような材料が必要なのかを考え、誰に何を尋ねるのかについて事前に検討させる。
- ◆ 古典の学習の際には、古典には和歌、俳諧、物語、随筆、漢文、漢詩など様々な種類があるとともに、能、狂言、歌舞伎、古典落語などの古典芸能も含まれることにも留意して指導する。さらに、小学校から親しんできた様々な古典とを結び付けることで、古典の世界について、新たな興味・関心を喚起させる。
- ◆ 書写の指導では、楷書と行書のそれぞれの特徴について理解させる。その際、硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすることに留意する。また、年間指導計画における書写の授業時数に応じて、毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を生徒の実態に即して適切に設定する。

(2) 正答率の低い問題 (正答率が概ね65%以下の小問。うち、上記(1)にも該当する小問については、ここでは省略する。)

問題番号	問題の概要	平均正答率 (%)	
		青森県	全国比
6二	「どれもこれも仁王を蔵しているのはなかった」の意味として適切なものを選択する	59.4	-0.7
9三イ	適切な語句を選択する (よい結果を早く出したいときは、 <u>急がば回れ</u> といわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)	62.9	+1.5
9五	話合いの記録として適切な言葉を考える	41.0	+5.2

①概況及び課題

- 正答率が低い小問は、「読むこと」領域1問(6二)、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」2問(9三イ、9五)である。
- 9五は41.0%と正答率が最も低いが、全国と比べると5.2ポイント上回っている。
- ▼ 「言葉の特徴や決まりに関する事項」、「漢字に関する事項」は、授業だけでなく、家庭学習と関連させる等、授業以外での継続的な学習も必要である。

②今後の対策・指導

- ◆ 文学的な文章を読む際には、文脈に即して語句の意味を的確に捉えながら読むように指導する。その際、その語句の辞書的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて、文脈の中における、具体的、個別的な意味を捉えるように指導する。また、場面の展開に着目して文章全体を読み、目的に応じて一つ一つの語句や文の意味を捉えることができるように指導する。
- ◆ ことわざや慣用句の指導については、各教科等の学習や読書活動をする中で出会った言葉を取り上げ、それぞれの意味を確認するとともに、具体的な使用例を考えるなどの学習活動を設定する。その際、語源などを確かめたり、似た意味や反対の意味の言葉を整理したりするように指導する。また、教師が意識的にことわざや慣用句などを用いて話したり、掲示物や配付物に取り入れたりするなど、言語環境の整備も有効である。
- ◆ 漢字の学習については、日常の学習において、次の点に留意して指導する。

日常的な漢字指導に当たって

○漢字を読むことの指導においては、漢字一字一字の音訓を理解させるとともに、ひとまとまりの語句として、文脈に即して意味や用法を理解しながら読むように指導する。また、字形と音訓、意味と用法、語の成り立ち、熟語の構成等について必要に応じて指導し、「へん」や「つくり」などに注目して、読みや意味を類推することができるように指導する。

○漢字を書くことの指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を身に付けさせるとともに、文脈に即した漢字を書くように留意させる。また、漢字を書く力を養うために、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を身に付けさせる。さらに、書写の学習との関連を図り、楷書で正しく整った文字を書くように指導する。

(『平成29年度全国学力・学習状況調査報告書【中学校国語】』p.57、p.58 参照)

4 国語Aに関する調査と質問紙調査との相関

(1) 生徒質問紙との相関

- 質問番号(58)「1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「当てはまる」	80.5	← 16.2ポイント ←	81.1
2	「どちらかといえば、当てはまる」	77.8		↑ 18.6ポイント
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	71.9		↓
4	「当てはまらない」	64.3		62.5

- ◆ 授業中に自分の考えを発表する機会が与えられていた生徒ほど正答率が高いことから、授業中に自分の考えや気持ちを発表させる場面を多くする。その際、自分の考えの根拠を示して発表するように指導するとともに、根拠として示した内容が自分の考えや気持ちを支えるものになっているかどうかについて吟味させる。

- 質問番号(74)「読書は好きですか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「当てはまる」	80.9	← 11.0ポイント ←	81.9
2	「どちらかといえば、当てはまる」	76.5		↑ 12.2ポイント
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	73.5		↓
4	「当てはまらない」	69.9		69.7

- ◆ 読書が好きな生徒ほど正答率が高いことから、学校図書館を計画的に利用するなどして、自発的・主体的な読書活動が行われるようにする。生徒が自発的・主体的な読書活動を行うためには、生徒の読書傾向の実態を把握し、多様な興味・関心に応えられるような図書資料を計画的に整備する必要がある。

(2) 学校質問紙との相関

- 質問番号(83)「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「よく行った」	79.5	← 3.3ポイント ←	78.1
2	「どちらかといえば、行った」	76.2		↑ 0.8ポイント
3	「あまり行っていない」	75.5		↓
4	「全く行っていない」	76.2		77.3

- ◆ 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定をよく行ったと回答した学校が最も正答率が高いことから、国語の授業において、「話すこと・聞くこと」領域では、インタビューやスピーチ、プレゼンテーションの効果的な方法について、「読むこと」領域では、必要な情報の収集・整理について指導し、総合的な学習の時間等で自分の住んでいる地域について調べ、発表する学習活動を設定し、国語で学習したことを活用できるようにする。

(『平成29年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例【中学校国語】』p.3「名インタビューになろう」、『平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例【中学校国語】』p.7「興味をもったり疑問に思ったことについて調べよう」参照)

II 国語B「主として活用に関する問題」

1 科目全体の結果

国語B全体の平均正答率 (%)		
青森県	全国比	前年度全国比
73	+1	-1

- 国語B全体としては、本県は全国と同程度である。
- 本県は、全国との差が、前年度に比べ2ポイント改善された。
- ◆ 基礎的・基本的な知識や技能を活用する力の更なる向上に努める。
- ◆ 活用する力を高めるために、国語の授業では次の点に留意して指導する。

知識や技能を活用する力を高めるために

- 様々な資料や文章から、目的や意図に合った情報を探し、取り出して思考・判断し、表現する活動（知識や技能を活用する場面）を増やす。
- 生徒一人一人が主体的に学習課題の解決に取り組んだり、追究したりする場面を設ける。
- 各領域において、スピーチや案内文の作成などの言語活動を経験させることで、授業で得た知識や技能を、他教科や日常生活などの場面でも使う（活用する）よう指導する。
- 自分の考えの根拠を明らかにして他の人に説明したり、他の人の考えを聞き、自分の考えと比較したりするなど、生徒同士が交流し合う場面を設定する。
- 授業のまとめと振り返りの場面では、学習のまとめを生徒自身の言葉で発表させたり、学習の過程を振り返り、何を学んだか、何ができるようになったか等を明らかにさせたりする。

2 分類・区分別の結果と今後の対策

分類	区分	平均正答率 (%)		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	71.9	-0.5	
	書くこと	61.4	+0.6	+1.0
	読むこと	74.0	+1.9	-1.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	45.6	+4.2	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	57.5	+1.6	+1.0
	話すこと・聞くこと	71.9	-0.5	
	書く能力	61.4	+0.6	+1.0
	読む能力	74.0	+1.9	-1.0
	言語についての知識・理解・技能	45.6	+4.2	

- 学習指導要領の領域別では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が全国と同程度であり、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国をやや上回っている。
- 「読むこと」領域で、全国との差が、前年度に比べ2.9ポイント改善された。
- ▼ 「話すこと・聞くこと」において、言語活動を工夫するなどして、学習指導の一層の充実に努める必要がある。
- ◆ 「書くこと」領域の指導改善のために、次の点に留意して指導する。

「書くこと」領域の指導改善のために

- 自分の考えや意見について根拠を明確にして書く力を身に付けるために、根拠として取り上げ内容が、目的や意図に合っているかどうかや、自分の考えや意見を述べるためにふさわしいものであるかどうかについて常に吟味するように指導する。書いた文

章を推敲したり交流したりする際には、このことを観点の一つとして取り上げて指導する。

○書く目的を意識し、見通しをもって必要な情報を集める力を身に付けるために、自ら課題を決めて文章を書く言語活動を構想するとともに、情報の提示の仕方やその効果について考えながら情報を集めるように指導する。その際、何のために文章を書くのかという目的を踏まえるように指導する。

(『平成29年度全国学力・学習状況調査報告書【中学校国語】』p.9 参照)

3 設問（小問）別の結果と今後の対策

(1) 全国平均との比較（全国の平均正答率よりも概ね1ポイント以上低い問題）

問題番号	問題の概要	平均正答率 (%)	
		青森県	全国比
3一	下書きについての説明として適切なものを選択する	73.3	-2.0

①概況及び課題

- 全国を1ポイント以上下回っているのは、「書くこと」領域の設問が1問（3一）であり、選択式問題である。
- ▼ 「書くこと」領域の指導において、「読むこと」領域との関連を図り、目的や意図に応じて必要な情報を集め、その内容を読み取るとともに、集めた情報を整理して文章を構成させる学習活動が必要である。

②今後の対策・指導

- ◆ 「書くこと」領域の指導において、新聞やパンフレット、発表のための資料等を編集する際、資料全体で何を伝えるのかという目的を明確にした上で、情報をどのようなまとまりで示すのか、どのような順序で配置するのかなど、構成を考えて書かせるように指導する。その際、同じ材料であっても、まとまりや書く順序の違いによって伝わり方がどのように違うのか、伝えたい事柄が適切に伝わるような構成になっているのかなどについてグループで確かめ合い、助言し合うなどの学習活動を設定する。

(2) 正答率の低い問題（正答率が概ね65%以下の小問）

問題番号	問題の概要	平均正答率 (%)	
		青森県	全国比
1三	比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く	45.6	+4.2
2三	スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す	57.0	-0.6

①概況及び課題

- 正答率が低い小問は、「書くこと」、「読むこと」の領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1問（1三）と、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」領域の1問（2三）で、記述式問題である。
- 小問1三は無解答率11.2%で、本県の国語Bの無解答率の中で最も高いが、全国の無解答率よりも3.1ポイント低い。
- ▼ 小問1三から、作品中の表現の仕方について捉え、自分の考えを書くようにする指導が、小問2三から、スピーチの際、相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に伝わるよ

うに工夫して話すようにする指導が必要である。

②今後の対策・指導

- ◆ 文学的な文章を扱う授業において、印象に残った場面や描写を取り上げ、なぜその場面や描写が印象に残ったのかを具体的に説明させる学習活動を設定する。その際、取り上げた場面や描写がどのような内容であるのかを明確にしたり、感じたことや考えたことを具体的に説明したりすることができるように指導する。さらに、比喩や反復などの表現の技法についての知識を生かすなど、これまでの学習を踏まえた指導となるように留意する。また、新聞やインターネットの書評、本のポップなどを取り上げ、そこに書かれたものの見方や考え方を再構築する学習活動も効果的である。
- ◆ スピーチをする際には、自分の伝えたいことが聞き手に対して十分に伝わる内容や表現の仕方になっているかを考えて話を構成し、場の状況や聞き手の様子に応じて話すように指導する。例えば、実際にスピーチ等をする様子を機器を用いて録画・録音し、伝えたい内容が正確に伝わっているか、聞き手に分かりやすい言葉になっているかなどについて振り返り、話し手と聞き手の両方の立場から検討するなどの学習活動を設定する。その際、交流を通して検討した、よりよい表現の仕方を、次の学習活動に生かすように指導する。
- ◆ 「話すこと・聞くこと」、「読むこと」領域の指導改善のために、次の点に留意して指導する。

「話すこと・聞くこと」、「読むこと」領域の指導改善のために

- 話す力や聞く力を身に付けるために、スピーチを取り入れた学習活動で、話し手に対しては、目的に応じて資料を効果的に活用して話すように指導する。聞き手に対しては、話の構成や展開などに注意してスピーチを聞くように指導し、質問や助言をする場面を設定する。また、交流を通して話し手と聞き手の両方の立場から検討するなど、スピーチを振り返る学習活動を設定し、より分かりやすい内容や表現の仕方について考え、次の学習活動に生かすように指導する。
- 文章の理解を深める力を身に付けるために、文学的な文章を読む学習活動で、登場人物の言動が話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのように関わっているかを考え、互いの考えを交流する学習活動を設定する。また、複数の場面や描写を関連付けて読ませる学習活動を設定する。作品を読んで、感じたことや考えたことを書く際には、根拠を明確にして書くように指導する。

(『平成29年度全国学力・学習状況調査解説資料【中学校国語】』p.67、p.61 参照)

「書くこと」領域の指導改善のために、次の点に留意して指導する。

4 国語Bに関する調査と質問紙調査との相関

(1) 生徒質問紙との相関

- 質問番号(57)「1、2年生のときに受けた授業では、先生から出される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」

<本県の状況>

	選択肢	平均正答率(%)	差	全国(国公立)	
1	「当てはまる」	78.2	← 21.6ポイント →	78.3	
2	「どちらかといえば、当てはまる」	73.6		↑ 21.9ポイント	56.4
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	65.1			
4	「当てはまらない」	56.6			

- ◆ 先生から出される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた生徒ほど正答率が高いことから、国語の授業においては、課題解決的な学習を取り入れ、主体的に学習に取り組めるような学習活動を設定するとともに、グループ学習等の交流活動を通して、考えを深めながら課題を解決できるように指導する。

- 質問番号(78)「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気

を付けて書いていますか」

<本県の状況>

選択肢		平均正答率 (%)	差	全国(国公立)	
1	「当てはまる」	79.6	← 22.4ポイント ←	79.8	
2	「どちらかといえば、当てはまる」	74.1		↑ 22.6ポイント	79.8
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	66.6			
4	「当てはまらない」	57.2		57.2	

- ◆ 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている生徒ほど正答率が高いことから、国語の授業においては、自分の疑問に照らして、複数の資料から必要な情報を収集・整理するなどさせ、根拠を明確にした上で自分の考えをもたせるように指導する。

(2) 学校質問紙との相関

- 質問番号(65)「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」

<本県の状況>

選択肢		平均正答率 (%)	差	全国(国公立)	
1	「よく行った」	77.0	← 3.4ポイント ←	75.2	
2	「どちらかといえば、行った」	71.9		↑ 7.5ポイント	75.2
3	「あまり行っていない」	72.1			
4	「全く行っていない」	73.6		67.7	

- ◆ 国語の指導として、前年度までに発展的な学習の指導をよく行ったと回答した学校が最も正答率が高いことから、国語の授業において、基礎的・基本的な知識及び技能の指導に加え、言語活動等を工夫するなどして、発展的な学習活動を適切に設定する。

<平成28年度県学習状況調査を踏まえて（国語A・B）>

【話すこと・聞くこと】

平成28年度県学習状況調査実施報告書において、「話すこと・聞くこと」領域では、互いの発言を検討して共通点や相違点を聞き分けたり、話題になっている物事について別の立場や視点から考えたりするように指導する必要があるとした。また、話し合いの過程で進み具合を客観的に把握したり、それまでの話し合いの経緯を振り返ってこれからの展開を考えて指導することも重要であるとした。

平成29年度全国学力・学習状況調査国語では、全国の正答率と比較すると、A問題では昨年度よりも0.8ポイント減少し、-2.3ポイントであり、B問題では-0.5ポイントであった。（昨年度はB問題において「話すこと・聞くこと」領域の出題はなかった）

「話すこと・聞くこと」領域の指導においては、これまでの指導に加え、スピーチや討論などの言語活動を通して、目的や場に応じた話し方や聞き方になっているかを意識させるとともに、実際に話した後に分かりやすかったかどうかについて、聞き手の指導を踏まえて検討させるなどの指導の工夫が必要である。

【書くこと】

平成28年度県学習状況調査実施報告書において、「書くこと」領域では、文章を書く際には集めた材料を取捨選択したり、関連を考えて分類したりするなど、目的や意図に応じて整理させ、その上で、伝えたいことが的確に伝わるように、構成を考えて書かせる指導が重要であるとした。

平成29年度全国学力・学習状況調査では、全国の正答率と比較すると、A問題では昨年度よりも1.0ポイント減少し、-0.3ポイント、B問題では、昨年度よりも0.4ポイント減少し、+0.6ポイントであった。

「書くこと」領域の指導においては、これまでの指導に加え、根拠として取り上げる内容が適切かどうかを吟味して書かせる指導や、書く目的を意識し、見通しをもって必要な情報を集めさせるなどの指導の工夫が必要である。

【読むこと】

平成28年度県学習状況調査実施報告書において、「読むこと」領域では、文章を読む際に、書かれている内容を理解するだけでなく、文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えをもたせるための指導が大切であるとした。また、課題の解決に必要な情報を集めるための方法を検討し、資料から読み取った情報を適切に活用する力を身に付けるために、自ら課題を設定し、他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決するような指導が必要であるとした。

平成29年度全国学力・学習状況調査では、全国の正答率と比較すると、A問題では昨年度よりも0.3ポイント減少し、-1.5ポイント、B問題では、昨年度よりも2.9ポイント増加し、+1.9ポイントであった。

「読むこと」領域の指導においては、これまでの指導に加え、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、視点を定めて読ませる指導や、複数の場面や描写を関連付けて読ませるなどの指導の工夫が必要である。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

平成29年度全国学力・学習状況調査A・Bにおいて、全国の正答率と比較すると、それぞれ1.7ポイント、4.2ポイント上回っているものの、引き続き日常的な漢字の指導及び多様な語句について理解を深め、語感を磨き、語彙を豊かにする指導の工夫が必要である。また、書写の学習において知識と技能を関連付けた指導を行うとともに、書く目的や必要に応じて書体を選んで書かせるなど、意識的に書写の学習成果を生かすような指導を行うことが必要である。

Ⅲ 数学A「主として知識に関する問題」

1 科目全体の結果

数学A全体の平均正答率 (%)		
青森県	全国比	前年度全国比
66	+1	+2

- 数学A全体として本県は、全国と同程度である。

- ◆ 調査結果を受けて、数学の授業では、次のことを大事にしたい。

基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるために

- 授業の中で、学習のねらいに即した課題を設定する。
- 数学的活動を通して、数量や図形などについて実感を伴って理解し、数学を学ぶことの楽しさや意義を実感できるようにするため、生徒が目的意識をもって主体的に取り組む活動になるように工夫する。
- 学習内容の定着度を評価する問題（適用問題）を解かせ、つまずきの実態に応じて、補充学習をする。

2 分類・区分別の結果と今後の対策

分類	区分	平均正答率 (%)		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	数と式	72.8	+2.4	+1.9
	図形	65.5	-0.5	+1.7
	関数	59.3	+1.9	+2.2
	資料の活用	58.4	+0.8	+0.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	70.4	+2.2	+2.7
	数量・図形などについての知識・理解	60.0	-0.2	+0.9

- 学習指導要領の領域別では、「図形」「関数」「資料の活用」の3領域が全国と同程度であり、「数と式」が全国をやや上回っている。
- 評価の観点別では、「数量・図形などについての知識・理解」が全国と同程度であり、「数学的な技能」は全国をやや上回っている。
- 本県は、「数と式」が前年に比べ全国との差が改善されている。
- ▼ 領域別では、「図形」について平均正答率65.5%が昨年度より3ポイント以上低くなっており、その改善を図る必要がある。
- ◆ 「資料の活用」の領域については、代表値の必要性や意味を理解するために、目的に応じてデータを収集し整理した表などから、代表値を求め、それを根拠にして資料の傾向を捉える活動を重視する。

3 設問（小問）別の結果と今後の対策

- (1) 全国平均との比較（全国の平均正答率よりも概ね1ポイント以上低い問題）

問題番号	問題の概要	平均正答率 (%)	
		青森県	全国比
2 (2)	100-20 a=bの式が表される場面を選ぶ	74.3	-1.1
3 (3)	x+y=2の解の意味について選ぶ	57.9	-1.7

4 (1)	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	6 6. 1	- 1. 3
6 (2)	n 角形の1つの頂点からひいた対角線によって分けられる三角形の数を選ぶ	6 8. 2	- 1. 2
7 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	7 5. 9	- 2. 7
7 (2)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	4 6. 9	- 2. 2
9	長方形の縦の長さとの面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	1 9. 5	- 1. 1
1 5 (1)	さいころを投げるときに「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ	7 6. 0	- 2. 0

①概況及び課題

- 領域別では、上記8問中、「数と式」が2問、「図形」が4問、「関数」「資料の活用」が各1問となっている。
- 評価の観点では、上記8問中、「数学的な技能」が1問、「数量や図形などについての知識・理解」が7問であった。
- ▼ 図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けさせる必要がある。

②今後の対策・指導

(『平成29年度全国学力・学習状況調査報告書【中学校数学】』の「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」における各小問ごとの「学習指導に当たって」を参照)

- ◆ 小問3 (3) については、二元一次方程式の文字に様々な数を代入し、二元一次方程式を成り立たせる文字の値の組を探す活動を通して、二元一次方程式の解の意味を理解できるように指導する。

例えば、二元一次方程式 $x + 2y = 3$ は、 $x = 1$ 、 $y = 1$ であれば成り立つが、 $x = 1$ 、 $y = 2$ では成り立たないことを、 $x + 2y$ の式の値を基に判断できることを確認する場面を設定することが考えられる。その上で、二元一次方程式 $x + 2y = 3$ の x に整数だけでなく分数や小数も代入して y についての方程式をつくり、解となる x 、 y の値の組を求める活動を取り入れることが考えられる。この活動を通して、二元一次方程式を成り立たせる x 、 y の値の組は無数にあることを理解できるようにする。

- ◆ 小問7 (1) については、証明を読み、根拠を見いだすとともに、その根拠に仮定がどのように用いられているかを確認する場面を設定し、三角形の合同条件など、証明の根拠として用いられている図形の性質を指摘できるように指導する。

本設問を使って授業を行う際には、証明を読み、当てはまる三角形の合同条件を確認した上で、その合同条件を成り立たせる辺や角の関係を図と対応させて捉える活動を取り入れることが考えられる。その際、証明の「仮定から」とされている「 $AB = AC$ 」、「 $BM = CM$ 」が、それぞれ、「 $\triangle ABC$ が $AB = AC$ である二等辺三角形であること」「 BC の中点が点 M であること」に基づいていることを確認できるようにする。

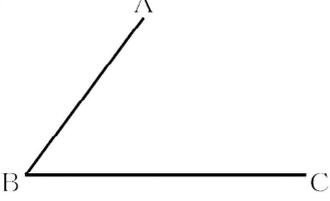
- ◆ 小問7 (2) については、平行四辺形の作図の手順に用いられている条件や、具体物にみられる平行四辺形になるための条件を指摘する活動を取り入れ、平行四辺形になるための条件を具体的な場面で捉え、それを用いることができるように指導する。

本設問を使って授業を行う際には、作図の手順から、四角形 $ABCD$ が平行四辺形になるための条件である「2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい」を満たしていることを確認する場面を設定することが考えられる。その際、手順③でとった点 D は、手順①でかいた円と手順②でかいた円との交点であることから、「 $BC = AD$ 」と「 $AB = DC$ 」を読み

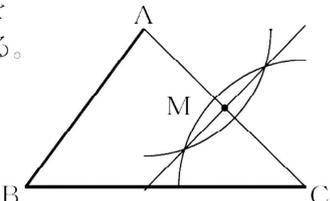
取る活動を取り入れる。

また、本設問の「2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい」とは異なる条件を用いた平行四辺形の作図の手順を提示し、同様の活動を取り入れることも考えられる。例えば、次のように「対角線がそれぞれの中点で交わる四角形は、平行四辺形である」ことを用いた作図の手順について話し合う場面を設定することが考えられる。その際、作図された図形の性質と作図の根拠として用いられている条件を明確に区別できるようにする。

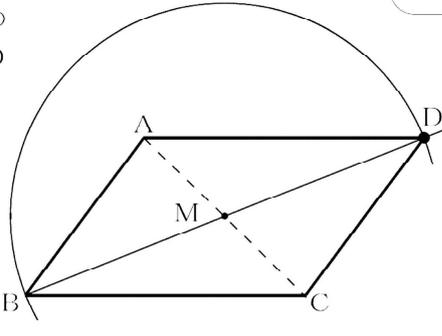
① 辺AB, 辺BCが
与えられている。



② 辺ACの中点Mを
作図によって求める。



③ 線分BMの2倍の
長さをもつ線分BD
を作図し、点Aと
点D, 点Cと点D
を結ぶ。



この3つの手順でどうして
平行四辺形がかけられるのかな。



対角線がそれぞれの中点
で交わる四角形は、平行
四辺形になるからだね！



- ◆ 小問9については、事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を通して、関数の意味を理解できるように指導する。その際、独立変数と従属変数との違いを意識して「…は…の関数である」という形で表現できるように指導する。

本問題を使って授業を行う際には、問題場面から様々な数量を取り出し、その中から「縦の長さ」と「面積」の関係について、縦の長さを決めると面積がただ1つに決まることを確認し、「面積は縦の長さの関数である」という形で表現する活動を取り入れることが考えられる。また、周りの長さを決めても面積は決まらないなどのように一方の値を決めても他方の値がただ1つに決まらないような関係を取り上げ、関数の意味の理解を深めることも考えられる。

- ◆ 小問15(1)については、起こり得る場合がどの場合も同じ程度に期待されることを確認し、起こり得る場合を順序よく整理し正しく数え上げる場面を設定することで、同様に確からしいことの意味を理解し、起こり得る場合の数を基にして確率を求めることができるように指導する。

例えば、1つのさいころを2回投げる試行において、1回目にどの目が出ても、2回目目の出方に影響しないことを実感したり、1つのさいころを多数回投げる試行において、目の出方を観察したりすることを通して、1から6までの目の出方は、それぞれの場合において同様に確からしいことを確認する場面を設定することが考えられる。その上で、樹形図や二次元の表を用いて、その全ての目の出方を調べて確率を求める活動を取り入れることも考えられる。

(2) **正答率の低い問題** (正答率が概ね50%以下の小問。上記(1)にも該当しているものは、ここでは省略する。)

問題番号	問題の概要	平均正答率 (%)	
		青森県	全国比
4 (3)	半径が5 cm、中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める	32.3	+1.6
6 (1)	錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	34.2	-8.9
10 (3)	反比例の表から比例定数を求める	43.0	+8.6
14 (1)	反復横とびの記録の範囲を求める	32.9	+4.3
14 (2)	6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	46.0	+0.5

①概況及び課題

- 領域別では、上記5問のうち「図形」が2問、「関数」が1問、「資料の活用」が2問である。
- 評価の観点別では、上記5問のうち、「数学的な技能」が2問、「数量や図形についての知識・理解」が3問である。
- 無答率については、本県の生徒は、上記5問のうち1問が全国平均と同程度であり、4問は全国平均よりもやや下回っていることから、問題に取り組む粘り強さは、全国よりもやや上回っていると考えられる。
- ▼ 扇形の弧の長さを求めることに課題がある。
- ▼ 錯角の意味の理解について課題がある。
- ▼ 反比例の表において、比例定数の意味の理解について課題がある。
- ▼ 資料から範囲を読み取ることに課題がある。

②今後の対策・指導

(『平成29年度全国学力・学習状況調査報告書【中学校数学】』P25の「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題 (3) 中学校 数学B」の各小問の「学習指導に当たって」を参照)

- ◆ 数学的に表現し処理する技能を身に付けさせるために、次のような指導を行う。

数学的に表現し処理する技能を身に付けさせるために

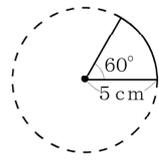
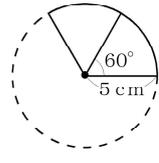
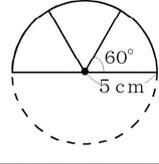
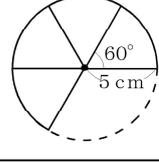
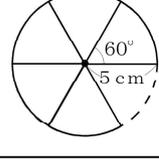
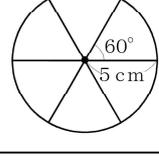
- 発見したことや分かったことを、一人一人の生徒が学習した数学の用語を使って、まとめる活動をさせる。
- 学習内容を一過性のものにせず、次時以降も、繰り返し使う場面を意図的に設定する。

- ◆ 小問4(3)については、扇形の円の一部として捉え、弧の長さや面積がその中心角の大きさに比例することを確認する場面を設定し、扇形の弧の長さや面積を求めることができるように指導する。

例えば、円を紙で作って、折ったり切ったりするなどの観察、操作や実験を通して、円

と扇形を関連付け、扇形の弧の長さや面積とその中心角の大きさの関係を捉える活動を取り入れることが考えられる。

半径 5 cm の扇形の場合

中心角 (度)	弧の長さ (cm)	
60	$10\pi \times \frac{60}{360} = \frac{5}{3}\pi$	
120	$10\pi \times \frac{120}{360} = \frac{10}{3}\pi$	
180	$10\pi \times \frac{180}{360} = 5\pi$	
240	$10\pi \times \frac{240}{360} = \frac{20}{3}\pi$	
300	$10\pi \times \frac{300}{360} = \frac{25}{3}\pi$	
360	$10\pi \times \frac{360}{360} = 10\pi$	

- ◆ 小問 6 (1) については、2 直線に 1 直線が交わってできる角で、互いに同位角や錯角の位置にある角を見いだす活動を取り入れ、それらの角の位置関係について理解できるように指導する。

同位角や錯角は、平行な 2 直線に 1 直線が交わった場合について扱われることが多い。そのため、「同位角や錯角は平行な 2 直線においてのみ存在する」、「同位角や錯角は常に等しい」などと誤った理解をしている生徒がいると考えられる。そこで、2 直線に 1 直線が交わる場合、「2 直線の位置関係に関わらず、同位角や錯角は存在する」、「2 直線が平行ならば、同位角や錯角はそれぞれ等しくなる」ことを確認する場面を設定することも考えられる。

- ◆ 小問10(3)については、比例、反比例の比例定数の意味を理解できるように指導する。その際、比例について、 a を比例定数として、 $y = a x$ または、 $\frac{y}{x} = a$ という式で

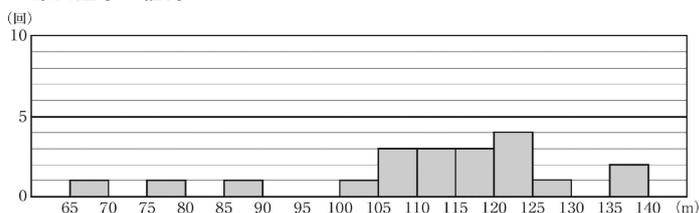
表される関係であることや、反比例について、 a を比例定数として、 $y = \frac{a}{x}$ または $x y = a$ という式で表される関係であることを確認する活動を取り入れることが考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、 x の値とそれに対応する y の値の積が常に一定になっていることを調べる活動を通して、 x 、 y の間の関係を見だし、 $y = \frac{36}{x}$ または、 $x y = 36$ という式に表し、 36 が反比例の比例定数であることを確認する場面を設定することも考えられる。

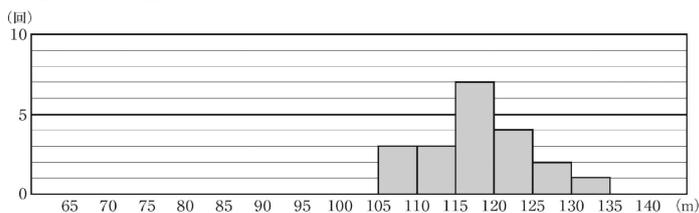
- ◆ 小問14(1)については、資料の散らばりの程度を捉える活動を行う際に、資料の最大値から最小値をひいた値を求めた上で、資料の範囲の意味を理解できるように指導する。

例えば、平成24年度【中学校】数学B[3]「スキージャンプ」の資料を取り上げ、原田選手と船木選手の記録を基に、「次の1回でより遠くへ飛びそうな選手」を考えるための視点として、範囲の値の大小を比較することで、それぞれの選手を比べたときの記録の安定性の違いを捉えることができることを確認する場面を設定することも考えられる。

原田選手の記録



船木選手の記録



	平均値	中央値	最大値	最小値	範囲
原田選手 (m)	120.0	115.5	137.0	66.0	71.0
船木選手 (m)	111.7	117.8	132.5	108.0	24.5

- ◆ 小問14(2)については、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れ、相対度数の必要性と意味について理解できるように指導する。

本設問を使って授業を行う際には、「6月における 22°C 以上 24°C 未満の日数が全日数に占める割合」を求める場面を設定することが考えられる。その上で、「6月における真夏日の日数が全日数に占める割合」を表す数値は、 30°C 以上 32°C 未満と 32°C 以上 34°C 未満の2つの階級のそれぞれの相対度数の和であることを確認する場面を設定することも考えられる。

さらに、総度数が異なる場合、階級の度数をそのまま比較することが適切でないことを実感する場面を設定することも考えられる。例えば、本年度【中学校】数学B[5]「運動時間の調査」の問題場面のように、階級の度数をそのまま比較することが適切でないような問題を扱うことで、相対度数の必要性と意味について理解できるようにする。

4 数学Aに関する調査と質問紙調査との相関

(1) 生徒質問紙との相関

- 質問番号(16)「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」

<本県の状況>

	選択肢	平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「4時間以上」	73.8	← 21.5ポイント ←	75.7 ↑ 23.3ポイント ↓ 52.4
2	「3時間以上、4時間より少ない」	71.1		
3	「2時間以上、3時間より少ない」	68.0		
4	「1時間以上、2時間より少ない」	65.4		
5	「1時間より少ない」	59.4		
6	「全くしない」	52.3		

- 質問番号(32)「家で学校の宿題をしていますか」

<本県の状況>

	選択肢	平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「している」	69.1	← 24.7ポイント ←	68.9 ↑ 20.0ポイント ↓ 48.9
2	「どちらかといえば、している」	57.2		
3	「あまりしていない」	50.1		
4	「全くしていない」	44.4		

- ◆ 生徒が家庭学習の習慣を身に付けることができるよう、一層指導を進める必要がある。家庭と協力して落ち着いて学習できる環境づくりや学習方法について情報提供するなどして、生徒が自律的に学習に取り組めるようにすることが大切である。

IV 数学B「主として活用に関する問題」

1 科目全体の結果

数学B全体の平均正答率 (%)		
青森県	全国比	前年度全国比
48	±0	+1

□ 数学B全体として本県は、全国と同程度である。

◆ 基礎的・基本的な知識や技能を活用する力の更なる向上に努める。

基礎的・基本的な知識や技能を活用する力を伸ばすために

- 授業の導入段階で、本時の課題（問題）解決に使う考え方や解き方を確かめてから（解決の見通しを持たせてから）、本時の課題（問題）に取り組むようにさせる。
- 数学の授業や日常生活の中で、基礎的・基本的な知識や技能を活用する（書く・説明する・解く等）場面を、これまで以上に意図的に設定する。
- 毎日の授業のまとめの適用問題や単元のまとめの適用問題及び家庭学習で取り組む課題プリントの中に、基礎的・基本的な知識や技能を活用する問題を意図的に入れる。

2 分類・区分別の結果と今後の対策

分類	区分	平均正答率 (%)		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	数と式	48.1	+1.8	+0.4
	図形	46.7	-0.4	-0.7
	関数	50.5	-0.3	+1.0
	資料の活用	49.7	+0.6	+1.7
評価の観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	36.6	-0.2	+0.4
	数学的な技能	62.1	+0.9	+1.2
	数量や図形などについての知識・理解	86.2	+1.1	

□ 学習指導要領の領域別では、4領域とも全国と同程度である。

□ 評価の観点別では、3観点とも全国と同程度である。

▼ 領域別では、平均正答率が50%を下回っている「数と式」「図形」「資料の活用」について、指導の改善が必要である。

▼ 評価の観点別では、平均正答率が50%を下回っている「数学的な見方や考え方」について指導の改善が必要である。

◆ 「数と式」の領域については、事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する活動を充実することが大切である。さらに、事象を数学的に考察し直し、様々な式を見いだすとともに、見いだした式を基に事象について振り返る活動を行う。

◆ 「図形」の領域については、図形における辺や角などの位置関係について理解が深められるようにするために、実際に平面上に図形をかいたり、コンピュータを利用して示したりしながら視覚的に捉え、辺や角の位置関係について確認したり、検討したりする活動を行う。

◆ 「資料の活用」の領域については、日常生活や社会における問題に対して、資料を用いて傾向を的確に捉え問題を解決できるようにするために、収集したデータを整理したグラフの形から分布の特徴を視覚的に捉えたり、代表値を求めて比較したりするなど、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を行う。

- ◆ 「数学的な見方や考え方」を身に付けさせるために、次のような取組を行う。

「数学的な見方や考え方」を身に付けさせるために

- 授業の中で、課題の解決のための方法を考えさせたり（記述させたり）、話し合わせたりする活動を適切な場面で設定する。
- 授業の中で、既習事項を使って未習の事項について予想させたり、より考えやすいものに替えさせたりするなどの活動を取り入れる。

3 設問（小問）別の結果と今後の対策

(1) 全国平均との比較（全国の平均正答率よりも概ね1ポイント以上低い問題）

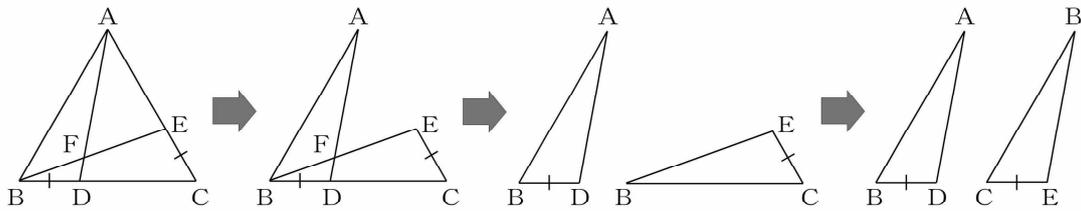
問題番号	問題の概要	平均正答率 (%)	
		青森県	全国比
1 (3)	与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ	51.3	-1.5
4 (1)	2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する	39.5	-4.6
4 (3)	点Dと点EをBD=CEの関係を保ったまま動かしたとき、∠BFDの大きさについて、正しい記述を選ぶ	42.7	-1.8

①概況及び課題

- 上記3問はすべてが、領域別では「図形」、評価の観点別では「数学的な見方や考え方」である。
- 上記3問について、本県の中学生の無答率は全国平均と大差はない。
- ▼ 図形の性質について筋道を立てて証明することや与えられていた式を用いて問題を解決する方法を数学的に証明することに課題がある。

②今後の対策・指導

- ◆ 小問1 (3)については、日常的な事象を図形に着目して、観察、操作や実験を通して図形やその構成要素同士の関係を見だし、図形の性質や特徴を捉える活動を取り入れ、対称性を的確に捉えることができるように指導する。
本設問を使って授業を行う際には、身の回りにある模様を取り上げ、図形の移動に着目してその基となる図形を見いだしたり、模様を観察することによってその中の2つの図形がどのような移動によって重なるか調べたり、1つの図形を基にしてそれを移動することによって敷き詰め、模様を作ったりする活動を取り入れることが考えられる。このような活動を通し、様々な日常的な事象を数学的に捉えようとする態度を養う。
- ◆ 小問4 (1)については、結論を導くためには何がわかればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、証明できるように指導することが大切である。その際、結論から仮定、仮定から結論の両方向から考えて証明する場面を設定することが考えられる。
本設問を使って授業を行う際には、 $\angle BAD = \angle CBE$ を導くために $\triangle ABD \equiv \triangle BCE$ を示せばよいことを明らかにし、 $\triangle ABD$ と $\triangle BCE$ で対応する辺の長さや角の大きさについてわかることを整理したり、合同を示すために必要な関係を見いだしたりするなどして証明できるようにすることが考えられる。その際、 $\triangle ABD$ と $\triangle BCE$ を抜き出した図を基に、対応する辺や角を確認する場面を設定することも考えられる。

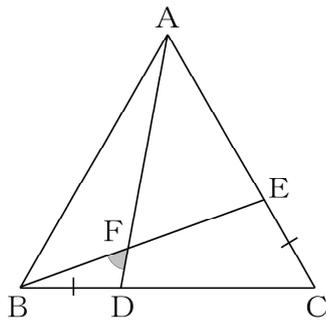


- ◆ 小問4 (3) については、条件を保ったまま図形の形を変えながら観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を見いだすことができるよう指導する。

本設問を使って授業を行う際には、問題で与えられた最初の条件を保ったまま図形の形を変えながら観察し、辺や角について考察する活動を取り入れることが考えられる。その際、例えば、点D、Eの位置を動かしても、 $\triangle ABD$ と $\triangle BCE$ が合同だから、 $\angle BAF = \angle CBF$ となり、 $\angle BFD$ の大きさは変わらないことを見いだせるようにする。

さらに、正三角形で予想した事柄が成り立つかどうかを確認した後、正三角形を正方形に変えてみるなど対象となる図形を変えて考えてみるといったような類推をして、正三角形で成り立つ事柄が正方形でも同様に成り立つかどうか考えさせる。

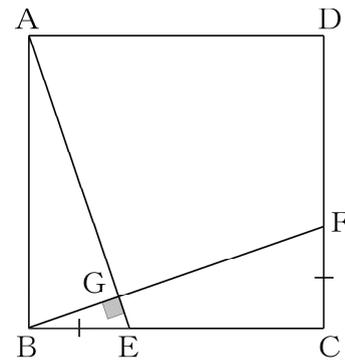
正三角形ABC



$$\angle BAD = \angle CBE$$

$\angle BFD$ の大きさは、 60° で一定

正方形ABCD



$$\angle BAE = \angle CBF$$

$\angle BGE$ の大きさは、 90° で一定

- (2) **正答率の低い問題** (正答率が概ね50%以下の小問。上記(1)にも該当しているものは、ここでは省略する。)

問題番号	問題の概要	平均正答率 (%)	
		青森県	全国比
1 (2)	四角形ABCDの様子が1回の回転移動によって四角形BEFGの様子に重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する	17.7	+3.7
2 (2)	六角形をn個並べ6本ずつ囲んだときに、2回数えているストローをnを用いた式で表す	48.1	+4.0
2 (3)	六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する	14.6	+0.1
3 (2)	与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する	17.9	-0.5

3 (3)	与えられた式から、 a の変域に対応する b の変域を求める	42.9	-0.3
5 (2)	全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方かどうかを判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ	49.9	-0.4
5 (3)	「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	17.3	-0.3

①概況及び課題

(『平成29年度全国学力・学習状況調査報告書【中学校数学】』P8「○課題等」を参照)

- 領域別では、上記7問のうち、「数と式」が2問、「図形」が1問、「関数」が2問、「資料の活用」が2問となっている。
- 評価の観点別では、上記7問のうち、「数学的な見方や考え方」が6問、「数学的な技能」が1問である。
- ▼ 2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- ▼ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
- ▼ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

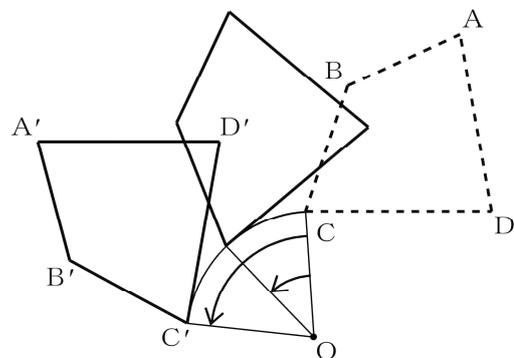
②今後の対策・指導

(『平成29年度全国学力・学習状況調査報告書【中学校数学】』P111の「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題 (3) 中学校 数学B」の各小問の「学習指導に当たって」を参照)

- ◆ 小問1(2)については、日常的な事象において、前提とそれによって説明される結論の両方を説明する場面を設定し、数量や図形に着目して見いだした事象の特徴を数学的に表現できるように指導する。

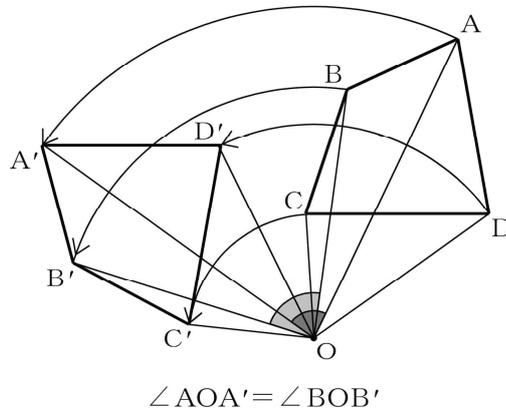
本設問を使って授業を行う際には、四角形 $ABCD$ の模様はどのような回転移動によって、四角形 $GBEF$ の模様と重なるかを捉える場面を設定することが考えられる。その際、前提とそれによって説明される結論を「四角形 $ABCD$ を回転移動した図形は、四角形 $GBEF$ と重なる。」のように表現することに加えて、「四角形 $ABCD$ を点 B を回転の中心として、時計回りに 120° の回転移動をした図形は、四角形 $GBEF$ と重なる。」のように、回転の中心の位置、回転の方向、回転角の大きさについて明確にし、数学的に表現できるようにする。

なお、平成26年度【中学校】数学A⁴(3)「与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ」の問題を取り上げ、右のような図を提示し、四角形 $ABCD$ の頂点が回転移動のきまりにしたがって移動していることへの理解を深める場面を設定することも考えられる。その際、実際に図形を紙で作って動かしたり、コンピュータを利用したりするなどの観察、操作や実験を取り入れ、図形の移動を視覚的に理解できるようにする。



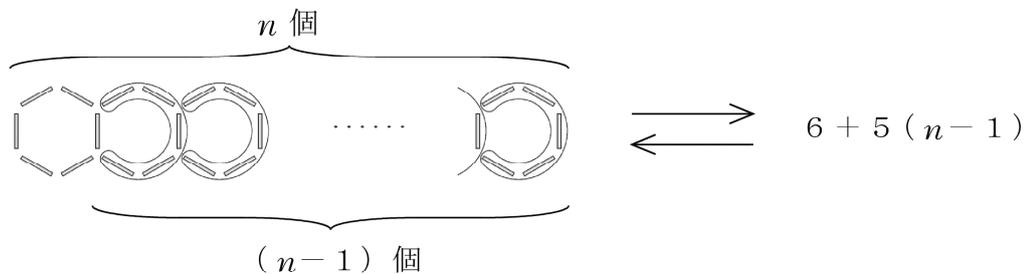
その上で、回転移動では、対応する点は回転の中心から等しい距離にあり、対応する点と回転の中心を結んでできる角の大きさはすべて等しいことを見いだす場面を設定することも考えられる。例えば、下の図のように、四角形 $ABCD$ を点 O を中心としてある角度

だけ回転移動させた四角形 $A'B'C'D'$ において、例えば頂点 A 、 B をそれぞれに対応する点は頂点 A' 、 B' であり、そのとき $OA=OA'$ 、 $OB=OB'$ 、 $\angle AOA'=\angle BOB'$ などの構成要素に着目して、移動前と移動後の図形の関係について確認することで回転移動の理解を深められるようにする。



- ◆ 小問 2 (3) については、事柄が成り立つ理由を事象に即して説明できるよう指導する。その際、事柄の意味を事象に即して読み取り、読み取った意味に基づいて、根拠を明確にする。

本設問を使って授業を行う際には、図 2 の囲み方で必要なストローの本数が表されることを確認し、その囲み方と式 $6 + 5(n - 1)$ で必要なストローの本数が表される理由を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、式 $6 + 5(n - 1)$ の「6」や「 $5(n - 1)$ 」が何を表しているかを読み取る場面を設定すること。その上で、式の「6」が「最初の六角形をつくるのに必要なストローの本数」であること、「 $5(n - 1)$ 」の「5」が「1つの囲みにあるストローの本数」、「 $(n - 1)$ 」が「囲みの個数」であり、「 $5(n - 1)$ 」が「囲まれているストローの総数」であることを読み取る場面を設定することも考えられる。



- ◆ 小問 3 (2) については、日常的な事象における 2 つの数量の変化の様子について予測したり、実際のデータの特徴を分析したりすることができるように指導する。その際、これまでに学習した数学を使って解決できるように、事象を理想化・単純化する活動を取り入れることが考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、データにない貯水量になるまでにかかる日数を求める場面で、「点 A から点 F までの点が一直線上にあるとし、貯水量がこのまま一定の割合で減少する。」と仮定して考え、「5月31日から経過した日数」と「貯水量」の関係を一関数とみなすことで、それらの変化や対応の様子について考察する活動を取り入れることが考えられる。

このように日常的な事象を理想化・単純化する活動を通して、数学の世界で考察することのよさを時間できるように指導する。

また、様々な問題を数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」とその「用い方」について考え、説明できるように指導すること。その際、実際に行った解決の過程を振り返り、そのときに用いた方法について、

「用いるもの」や「用い方」のいずれか一方の説明にとどまらず、「用いるもの」とその「用い方」の両方を指摘し、的確に説明できるように指導する。

本設問を使って授業を行う際には、貯水量は経過した日数の一次関数であるとみなした上で、例えば、グラフを用いて問題を解決した場合を取り上げ、その方法について、直線のグラフをかくこと（「用いるもの」と、y座標が1500のときのx座標を読むこと（「用い方」）の両方を指摘し、問題解決の方法を的確に説明する活動を取り入れることが考えられる。

- ◆ 小問5（3）については、資料の分布の様子を捉える場面を設定し、資料の傾向を的確に捉えて判断できるように指導する。

本設問を使って授業を行う際には、1週間の総運動量が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にあるかどうかを2つの分布の比較から検討し、判断する場面を設定することが考えられる。なお、総度数が異なる2つの集団を扱う際には、相対度数を用いると各階級ごとの比較が可能になることや相対度数を使った度数分布多角形を用いると2つの資料で分布の特徴を捉えやすくなることを確認する場面を設定することも考えられる。その上で、資料の2つの分布の特徴を捉え、根拠を明確にして事柄が成り立つ理由を説明する活動を取り入れることが考えられる。

4 数学Bに関する調査と質問紙調査との相関

(1) 生徒質問紙との相関

- 質問番号（79）「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか」

〈本県の状況〉

	選択肢	平均正答率 (%)	差	全国(国公立)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	52.9	← 26.5ポイント	53.9
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	35.8		↑ 27.7ポイント
3	書く問題は全く解答しなかった	26.4		↓ 26.2

- 質問番号（90）「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか」

〈本県の状況〉

	選択肢	平均正答率 (%)	差	全国(国公立)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	56.9	← 30.6ポイント	57.7
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた	38.3		↑ 31.8ポイント
3	書く問題は全く解答しなかった	26.3		↓ 25.9

- ◆ 言語能力はすべての教科の基本と位置付けられており、国語で培った能力が、各教科等の目標を実現する手立てとして重要である。「書くこと」に苦手意識をもつ生徒には、個別指導を行い、最後まで取り組む力や方法を育成することが大切である。普段から、根拠を明確にして自分の考えを書いたりする力が身に付くよう、具体的に指導する。
- ◆ 思考、判断、表現するためには、正しく読み取ることが必要である。また、普段の授業から問題の解き方が分からないときも諦めずに、いろいろな方法を考える習慣を身に付けさせる。

<平成28年度県学習状況調査を踏まえて（数学A・B）>

【知識・理解】

平成28年度県学習状況調査実施報告書では、「図形」の領域において、基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、それを使って解決する力に課題が見られ、今後の指導として、図形の移動を通して、移動前と移動後の二つの図形の関係、例えば、直線の位置関係、対応する辺や角の相対関係、図形の合同に着目することができるようにすることで、図形の性質を見出したり、図形の見方をより豊かにしたりすることが大切であるとした。

平成29年度全国学力・学習状況調査で、「図形」において、数学Aでは昨年度を今年度はやや下回り、数学Bでも「図形」において、今年度の全国平均正答率より低くなっていることから、今後も「図形」の領域への指導に重点を置きながら指導する必要がある。

【数学的な見方・考え方】

平成28年度県学習状況調査実施報告書では、「図形」の領域において、見取り図を展開図に表し、平面図形上から、線分の長さが最も短いことを考察することに課題が見られた。

今後の指導として、基礎的・基本的な知識や技能を活用しながら、生徒自らが問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程や方法を振り返り、新たな知識や技能を身に付けてそれらを統合できるように支援することが大切であるとした。

平成29年度全国学力・学習状況調査では、数学Bにおいて、全国と同程度であるが、正答率が50%に達していないことから、今後も授業の中で、課題の解決のための方法を考えさせたり、記述させたり、話し合わせたりする活動を多くする。また、授業の中で、既習事項を使って未習の事項について予想させたり、より考えやすいものに換えさせたりするなどの活動を取り入れて指導する必要がある。

V 質問紙調査

1 生徒質問紙の結果と今後の対策

(1) 学習に対する関心・意欲・態度及び学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
56「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。 (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	70.1	+5.8	+8.0
64授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	72.8	+6.7	+4.8
65ノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	85.8	+5.5	+2.6
68400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか (「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」の合計)	43.3	+6.0	+1.5
71国語の勉強は好きですか (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	65.8	+5.3	+0.8
74読書は好きですか (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	76.2	+6.3	+0.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる生徒の割合は、全国を上回っており、前年度より増加している。
- 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う割合は、全国を上回っている。
- ノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思う割合は、全国を上回っている。
- 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいとは思っていない生徒の割合は、全国を上回っているものの、半数に届かない。
- 国語の勉強が好きと答えた割合は、全国を上回っている。
- 読書が好きである答えた割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
8友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	95.6	+1.0	+1.1

- 多くの生徒が、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができると考えている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
85数学の授業で学習したことを普段の生活の中で	49.3	+4.0	+3.5

活用できないか考えますか (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)			
--	--	--	--

▼ 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えると答えた割合は、半数に満たない。

②今後の対策・指導

◆ 引き続き、授業を行うに当たっては、次のようなことを心がける。

主体的な学習態度を育てるために

- 生徒は概ね各教科の学習活動に前向きな様子が見え始めるので、今後も生徒の学習意欲や疑問を引き出しながら、分かる授業を展開する。
- 授業で学んだことが現在や将来の生活にどうつながるかを理解させることは、生徒が学ぶ意義を実感し、学習意欲を高めることにつながるから、各教科とも適切な題材で実生活との関連を図った授業展開を図ることが重要である。

(2) 学習時間等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
16土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾等の時間も含む) (「2時間以上」の合計)	47.7	+5.9	+1.8
34家で、学校の授業の復習をしていますか (「している」「どちらかといえば、している」の合計)	64.8	+14.3	+0.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上、勉強をする割合は、全国を上回っているものの、半数に満たない。
- 家で、学校の授業の復習をしている割合は、全国を大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
15学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾等の時間も含む) (「2時間以上」の合計)	25.5	-9.9	+1.8
17学習塾(家庭教師を含む)で勉強していますか (「通っている」の合計)	32.8	-28.6	+0.5
33家で、学校の授業の予習をしていますか (「している」「どちらかといえば、している」の合計)	26.0	-5.7	-0.1

▼ 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり2時間以上、勉強をしている割合は、全国を下回っており、4分の1程度である。

※3時間以上(5.1%) 2～3時間(20.4%) 1～2時間(40.2%)

30分～1時間(23.1%) 30分未満(8.0%) 全くしない(3.2%)

▼ 学習塾(家庭教師を含む)に通っている割合は、全国を大きく下回っている。

▼ 家で学校の授業の予習をしている割合は、全国を下回っており、4分の1程度である。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
18学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）（「1時間以上」の合計）	15.8	+1.8	+1.1
19昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。（「週1～3日以上」の合計）	4.8	-3.3	+0.4

- ▼ 平日に1時間以上読書をしている割合は、2割に満たない。
- ▼ 授業以外で図書館を週に1日以上利用する割合は、5%弱である。

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、授業を行うに当たっては、次のようなことに心がける。

家庭学習を充実させるために

- 調査結果から家庭学習の平均時間は、平日1日当たり本県の中学生は1.57時間（全国1.76時間）、休日1日当たり本県の中学生は2.09時間（全国1.93時間）である。このことから、平日の不足した学習時間を補おうと休日の時間増につながっていることがうかがえる。生徒の意欲を生かすためにも、平日、休日とも時間を確保していけるよう、教育活動の調整を行うなどの配慮をすることが考えられる。
- 家庭学習の時間を確保するために、学級活動等の時間において、生徒に1日の生活の過ごし方を振り返る活動を定期的に行ったり、月単位、学期単位、年間単位等の長い期間での学習計画を立てる活動を行ったり、生徒同士が家庭学習時間の確保や家庭学習の方法を話し合ったりするなどの活動を取り入れ、生徒自身が見通しをもって、家庭学習に取り組めるよう指導する。
- 基礎的・基本的な知識や技能の定着のための課題を提示するだけでなく、発展的な学習内容や予習などの学習方法を提示するなど、生徒個々が習熟の状況に応じた家庭学習に取り組めるよう指導する。なお、そのような指導を通して、生徒自身が自己の課題に応じた学習に取り組めるようにしていくことが重要である。
- 生徒が取り組んだ課題や一人勉強ノートには、コメントを記入し、適切に評価したり、生徒の習熟に応じて適切にアドバイスしたりすることが大切である。
- 家庭学習習慣の確立には、家庭との連携が不可欠であることから、学級懇談会や学級通信等を通じて、学級活動等で生徒自身が考えた学習計画を共有したり、県教育委員会作成のリーフレット等を活用して、家庭学習習慣の確立に向けて協力を呼びかけたりしていくことが必要である。

(3) 基本的生活習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
20学校の部活動に参加していますか （「運動部だけに参加」「文化部だけに参加」「運動部、文化部両方に参加」の合計）	96.3	+9.7	(新規)

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 部活動に参加している生徒の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上下回った質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
14 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（ゲームを除く） （「1時間以上」の合計）	45.3	-5.1	+3.9

▼ 平日、1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合は、全国を下回っているものの、半数近く（45.3%）の生徒が該当し、昨年と比較し、増加している。

※ 4時間以上(7.6%) 3～4時間(7.9%) 2～3時間(12.8%)
1～2時間(17.0%) 30分～1時間(13.9%) 30分未満(15.4%)
持っていない(25.1%)

(参考：質問事項13より) 平日、ゲームをする時間

4時間以上(10.4%) 3～4時間(10.3%) 2～3時間(16.6%)
1～2時間(22.8%) 1時間未満(24.8%) 全くしない(15.0%)

(参考：質問事項12より) 平日、テレビ・DVD等の視聴時間1時間以上（県78.2%）

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
28 テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていきますか （「している」「どちらかといえば、している」の合計）	32.0	-2.0	(新規)

▼ テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていく生徒の割合は3分の1程度である。

②今後の対策・指導

◆ 平日のメディアとの関わりについて、全国に比べ、本県はいずれも低い割合であるものの、平日のスマートフォン等の利用2時間以上は25%を、ゲーム2時間以上は30%を超えており、生活上の大きな課題であると言える。

家庭で望ましい生活を送ることができるよう、また、自律した生活を送ることができるよう、進路や将来の生活と現在の生活に関連付けて考えさせたり、家庭学習を含めた家庭での生活の見直しとの関連を図ったり、長時間、スマートフォン等の携帯端末を使用することの身体・健康への影響等とも関連させたりするなどの工夫を取り入れ、学級活動や教科の授業など様々な場面を活用しながら、継続的に指導をしていく必要がある。

また、家庭での望ましい生活習慣の確立には、保護者との連携が不可欠であることから、学級懇談の場で保護者と課題を話し合ったり、家庭でのルールづくりを促したりすることが必要である。

(4) 地域・社会との関わり

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上下回った質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
42 今住んでいる地域の行事に参加していますか （「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計）	37.0	-5.1	-3.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合は、4割程度であり、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
44地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	37.4	+4.0	(新規)
45地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか (「参加したことがある」の合計)	49.2	-0.5	+1.4
46地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか (「よくある」「時々ある」の合計)	25.3	+1.7	(新規)
47新聞を読んでいますか (「週1~3回以上」の合計)	16.1	+1.2	-3.8
50将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いますか (「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計)	30.2	-2.7	(新規)

- ▼ 地域や社会との関わりについて、次の項目は望ましい回答の割合が極めて低かった。
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える」
「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」
「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある」
- ▼ 新聞を週1回以上読んでいる割合は、2割に満たない。
- ▼ 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思う生徒の割合は3割である。

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、地域住民、関係機関からの協力を得ながら、次のようなことを心がける。

社会参画の意識を高めるために

- 地域や社会に対する興味・関心をもつことは生徒の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、地域行事の情報を積極的に提供し、生徒が地域の行事に自ら参加するよう促したり、参加できる環境を学校が積極的に整えたりすることが重要である。
- 教科等の授業の際、地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行うことで、学習した内容を実生活で生かせる実感をもたせる。
- 総合的な学習の時間で、地域の方に関わる場を設定したり、地域の課題解決を検討したりするような学習活動を、現在行っている職場体験などの学習活動と関連付けて実施することによって、地域の一員として自覚や参画する意識を育てよう指導する。
- 短学活で新聞記事等を紹介し、その出来事について、生徒自身の考えをもたせる活動等を継続的に取り入れていく必要がある。

(5) 生徒の意識

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回った質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
10将来の夢や目標を持っていますか	75.9	+5.4	-0.7

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)			
38 学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか (「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計)	46.0	+5.5	-18.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 将来の夢や目標を持っている生徒の割合は、全国を上回っている。
- 学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして、話し合い、意見をまとめていると考えている生徒の割合は、全国を上回っているものの、前年を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
4 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	95.0	+0.3	+0.5
51 学校の規則を守っていますか (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	95.7	+0.5	+0.5
52 友達との約束を守っていますか (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計)	97.8	+0.4	+0.3

- ものごとを最後までやり遂げ、うれしかったことがある生徒の割合は極めて高い。
- 学校の規則を守っている生徒の割合は極めて高い。
- 友達との約束を守っている生徒の割合は極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回った質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 上記以外にも、いじめはどんな理由があってもいけない（県94.7%）など、生徒の規範意識は高いものがある。今後とも、全校体制で道徳教育のより一層の充実を図るなど、豊かな人間性を育む教育を重視することが大切である。

2 学校質問紙の結果と今後の対策

(1) 学習態度

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
12 生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか (「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計)	85.0	-6.7	+1.3

- ▼ 生徒が熱意をもって勉強していると感じている学校の割合は、全国より下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、授業を行うに当たっては、次のようなことを心がける。

主体的な学習態度を育てるために

- 生徒の調査からは、学習に対する意欲は前向きであることから、適切な教材の使用や導入での生徒の興味関心を高めるような工夫を図ることが必要である。
- 生徒の意欲を適切に捉え、授業に生かしたり、前向きに評価することを通して、生徒の学習意欲をより確かなものとしていく必要がある。

(2) 指導方法・学習規律

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
38授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導しましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	96.8	+5.6	+1.8

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ノートに、学習の目標とまとめを書くように指導した割合が全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
33授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	100.0	+1.7	+1.3
45将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	96.0	-1.5	-2.2
48学習規律の維持を徹底しましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	96.7	-1.3	-2.1

- すべての学校で、授業の中で目標を示す活動を計画的に取り入れている。
- 多くの学校で、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている。
- 多くの学校で、学習規律の維持を徹底している。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
49各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	66.6	-8.6	(新規)
51学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	89.6	-5.9	-6.7

- ▼ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価した学校の割合は、全国を下回っており、前年より減少している。

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、授業を行うに当たっては、次のようなことに心がける。

主体的な学習態度を育てるために

- 各教科や総合的な学習の時間の授業で、生徒の課題意識を生かした単元計画を構想したり、生徒が調べ、分析し、発表・表現するような学習活動を適切な場面で設定したりする工夫が必要である。
- 導入時に既習事項との関連から学習課題を立てさせたり、課題解決の見通しを持たせたりするなどの学習活動や、整理時に学習したことを自分の言葉でまとめたり、自らの取組がどうであったかを振り返ったりする学習活動は、学習意欲の向上や学習内容の定着のために重要であることから、必ず行うようにする。
- 授業において、学習活動を何のために行っているのか等を生徒自身が自覚的に活動に取り組めるよう配慮が必要である。また、生徒自身が自らの成長を確認できるような場面設定を工夫する必要がある。
- ペーパーテストだけでなく、学習過程における形成的評価等の多様な評価の方法を取り入れながら、生徒のよさや成長を多面的に見取ることが必要である。さらに、その結果については生徒にフィードバックすることで、生徒が自分自身の成長を自覚できるよう配慮する必要がある。

(3) 学力向上に向けた取組等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
30 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか (「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計)	98.7	+10.9	+6.2
31 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか (「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計)	68.7	-5.9	+6.8
43 資料を使って発表ができるよう指導しましたか (「よく行った」「どちらかといえば行った」の合計)	83.7	-1.8	+8.1

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 調査や各種データ等に基づいて、教育課程の編成・実施・評価・改善というPDCAサイクルを確立している学校の割合は、全国を上回っている。
- 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている学校は、全国を下回っているものの、前年より増加している。
- 資料を使って発表ができるよう指導した学校の割合は、前年より増加している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
37 発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	97.4	+0.4	+1.1
39 学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	96.1	+1.5	+1.7
107 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか (「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計)	99.4	+1.0	±0.0
108 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか (「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計)	98.1	+1.5	+1.2

- 多くの学校で、発言や活動の時間を確保して授業を進めている。
- 多くの学校で、学級やグループで話し合う活動を授業などで行っている。
- 多くの学校で、学校全体の学力傾向や課題、学級運営の状況や課題を共有し、組織的に取り組んでいる。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
17学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか (「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計)	66.7	-6.2	+4.8
22図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか (「学期に数回以上」の合計)	17.6	-32.0	+2.6
23放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか (「週1回以上」の合計)	40.5	-12.0	-4.5
24土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか (「学期に数回以上」の合計)	4.6	-5.4	-0.4
26指導計画について、知識・技能の活用に重点を置いて作成していますか (「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計)	86.9	-5.1	-1.9
40総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	79.1	-4.6	-5.9
41授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	64.7	-10.4	-2.2
42本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	75.8	-7.7	+0.2

- ▼ 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 図書館資料を活用した授業を計画的に行った学校の割合は、全国を大きく下回っており、2割に満たない。
- ▼ 放課後や土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 指導計画について、知識・技能の活用に重点を置いて作成した学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした学校の割合は、前年より減少している。
- ▼ 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた学校の割合は、全国を大きく下回っている。
- ▼ 本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導した学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
25長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか (「延べ9日以上」の合計)	23.5	+0.5	-3.4

- ▼ 長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、2割程度である。

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、授業を行うに当たっては、次のようなことを心がける。

主体的な学習態度を育てるために

- 学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善など、次のような視点を通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立する必要がある。
 - ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。
 - ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。
 - ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。
- 生徒の話合いなどの活動を通して、解決に向けて、考えを伝えたり、相手の考えを最後まで聞いたり、その結果をまとめたり、表現したりするような学習活動では、それらの活動を通して、生徒個々の考えを深めたり、広めたりするなどのねらいやそのための方法を明確にした授業づくりをより一層充実させていく必要がある。
- 本やインターネットを使って調べ方を身に付ける授業や、学校図書館を活用した授業は、生徒が自ら課題を解決したり、自分の考えをもったりすることにつながることから、各教科等で計画的・発展的に取り組む必要がある。
- また、その結果を図表やグラフを用いながらまとめたり、文章に書かせたりするなど多様な方法で表現することは、生徒の思考力・判断力・表現力等を伸ばすことにつながることから、各教科等において適切な場面で取り組む必要がある。

(4) 各教科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
52 コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	51.6	-12.2	+7.2
54 数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか (「月1回以上」の合計)	30.7	-8.1	+9.4
65 国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	64.0	-3.4	+5.8

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習や課題発見・解決型の学習指導を行った学校の割合は、全国を大きく下回っているものの、前年より増加している。

- 数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行った学校の割合は、全国を下回っているものの、前年より増加している。
- 国語の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、全国を下回っているものの、前年より増加している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
67国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	96.1	+0.4	+1.7
69国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	99.4	+1.0	±0.0
73数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	98.7	+2.2	+1.2

- 多くの学校で、国語の指導として書く習慣を付ける授業を行っている。
- ほとんどの学校で、国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業や、数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業が行われている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
53国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか (「月1回以上」の合計)	15.7	-9.6	+3.8
64国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	79.1	-3.2	-6.6
66国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	81.7	-5.8	+1.1
71数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	65.3	-5.9	-2.8
72数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	58.2	-12.7	-2.5

- ▼ 国語の指導として、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業に取り組んだ学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 国語の指導として、補充的な学習の指導を行った学校の割合は、前年より減少している。
- ▼ 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 数学の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、全国を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、授業を行うに当たっては、次のようなことを心がける。

主体的な学習態度を育てるために

- 日常の授業の中で基礎・基本の定着を図った上で、生徒の実態を考慮して、発展的な学習に取り組んでいく必要がある。さらに、家庭学習との関連を図っていくことで効果を上げることが考えられる。
- 効果的な場面において、コンピュータ等の情報通信技術等を活用した授業づくりを取り入れる必要がある。
- 教科等の授業の際、地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行うことで、学習した内容が実生活で生かせる実感をもたせる。(再掲)

(5) 個に応じた指導

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
62 数学の授業において、ティームティーチングによる指導を行いましたか (「年間の授業のうち、おおよそ1/4以上で行った」の合計)	75.2	+28.3	+4.5

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 数学の授業において、年間の授業のうちおおよそ1/4以上でティームティーチングによる指導を行った学校の割合は、前年を上回り、全国を大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった (概ね95%程度) 質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
60 数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか (「年間の授業のうち、おおよそ1/4以上で行った」の合計)	22.2	-14.2	+2.2
61 数学の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか (「年間の授業のうち、おおよそ1/4以上で行った」の合計)	15.7	-15.1	+0.6
74 学校の教員は、特別支援教育について理解し、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	85.0	-5.9	-1.9

- ▼ 数学の授業において、年間の授業のうちおおよそ1/4以上で、習熟の遅いグループに対して少人数指導によって習得できるよう指導したり、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱ったりした学校の割合は、全国を大きく下回っており、2割程度である。

- ▼ 学校の教員は、特別支援教育について理解し、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった (概ね50%未満) 質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ ティームティーチングや少人数指導は、これまでの調査結果やその分析も参考にしながら、理解に大きく差が出る学習内容や生徒の実態に応じて、適切な指導方法を取り入れる必要がある。

(6) 家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
89国語の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導しましたか (「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計)	95.4	+0.5	+1.0

多くの学校で、国語の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導している。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
90数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	88.9	-5.8	-1.2
94家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりして来る宿題を与えましたか(国語/数学共通) (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	61.4	-8.4	-1.1

▼ 数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた学校の割合は、全国を下回っている。

▼ 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりして来る宿題を与えた学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 引き続き、授業を行うに当たっては、次のようなことを心がける。

主体的な学習態度を育てるために

- 教科担任制となる中学校では各教科の専門性・独自性が高まるため、各教科の授業において、各教科の特質に応じた家庭学習の在り方について具体的かつ実践的にガイダンスを行う必要がある。また、定期的に取り組の状況を確認し、適切な助言を行う必要がある。
- 教科ごとに家庭学習の課題を調整するなど、生徒が無理なく取り組むことができたり、自分で学習する内容等を計画しながら進めたりできるような指導に今後とも学校・学年全体で組織的に取り組む必要がある。
- 授業のまとめの段階で復習や宿題だけでなく、授業の題材に応じて予習や発展的課題を提示するなどの具体的な指導を行う。
- 単元のまとめとして、単元で学習したことを文章や図表を使って、整理させる課題を与えたり、次の単元や授業につながる課題を提示し、辞書や資料を使って調べさせたりするような課題を与えたりする指導を、適切な場面を捉えて実施する。
- 生徒が家庭での学習の拠り所とするため、授業や生徒の思考の流れが明確となるようなノート指導に継続的に取り組む。

(7) 教員研修及び教職員の取組

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
97 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか (「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計)	86.9	-1.5	+11.9
98 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	93.5	+3.5	+9.8
99 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか (「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計)	100.0	+5.0	+1.3
100 教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか (「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計)	88.9	+7.4	+9.5

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている学校の割合は、前年より大きく増加した。
- 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている学校の割合は、前年より増加した。
- 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている学校の割合は、全国を上回っている。
- 教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加している学校の割合は、全国を上回り、前年より増加した。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
96 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか (「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計)	99.3	+1.3	-0.1

- ほとんどの学校で、校長のリーダーシップのもと、校内研修に組織的、継続的に取り組んでいる。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
55 平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか (「よく行った」「行った」の合計)	90.8	-6.5	-3.0
56 平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか (「よく行った」「行った」の合計)	81.0	-13.4	-1.6
57 平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか (「よく行った」「行った」の合計)	53.0	-33.8	+2.3
58 平成28年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか (「よく行った」「行った」の合計)	55.5	-27.9	+0.5
59 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体	81.7	-8.4	-4.6

における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか（「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」の合計）			
101生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	62.8	-5.8	+0.3
102授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか (年間5回以上)の合計	40.5	-27.9	-0.2
104学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか (「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計)	86.9	-6.9	±0.0

- ▼ 平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、次の項目が全国を大きく下回っている。
「分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用した。」
「自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った。」
「自校の結果や学校評価の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った。」
- ▼ 平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、次の項目が全国を下回っている。
「自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有した。」
「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行った。」
- ▼ 生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 授業研究を伴う校内研修を年間5回以上行った学校の割合は、全国を大きく下回っており、半数に満たない。
- ▼ 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っている学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満） 質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 校内研修の推進に当たっては、引き続き、次のようなことを心がける。

組織的な取組を推進するために

○学校が生徒の学力向上に取り組んでいくためには、保護者等に、生徒の実態を理解してもらい、協力を得ることが大切である。全国学力・学習状況調査の結果公表に当たっては自校の結果について、それぞれの判断において公表することが可能である。なお、その際は、次のことに配慮する必要がある。

(以下、平成29年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領より抜粋)

- ①公表する内容や方法等については、教育上の効果や影響等を考慮して適切なものとなるよう判断すること。
- ②単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行わず、調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表すること。さらに、調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策を速やかに示すこと。
- ③調査の目的や、調査結果は学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを明示すること。

④生徒個人の結果が特定されるおそれがある場合は公表しないなど、生徒の個人情報の保護を図ること。

⑤学校や地域の実情に応じて、個別の学校や地域の結果を公表しないなど、必要な配慮を行うこと。

○調査結果の分析を、当該教科や当該学年だけでなく、学校全体の問題として共有し、教育活動全体で授業改善を図っていく必要がある。

○校内研修は各教員の授業改善や指導力の向上のために重要な基盤であることから、互いの授業を見合い、研究協議する機会を確保する。なお、実施の際には、参観の視点を明らかにするなどして、教科の枠を越えた協議が可能となるような工夫をする必要がある。

(8) 学校種間の連携及び地域の人材・施設の活用

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
79地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	54.9	-14.0	+8.0
86学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	59.4	-18.0	+6.9

□ 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、前年より増加したものの、全国を大きく下回っている。

□ 学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加を得ている学校の割合は、前年より増加したものの、全国を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
84職場見学や職場体験活動を行っていますか (「行っている」の割合)	100.0	+1.1	±0.0
85PTAや地域の人が学校の諸活動(学校の美化など)にボランティアとして参加してくれますか (「よく参加してくれる」「参加してくれる」の合計)	97.4	-0.1	+0.5

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ すべての中学校で、職場見学や職場体験活動を行っている。

□ 多くの学校で、PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加している。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
75近隣等の小学校と、教育目標を共有する取組を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	51.6	-11.8	+1.6
77近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	47.1	-11.1	-3.0
78平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか (「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計)	40.6	-16.2	+2.4

80 ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか （「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計）	9. 8	- 2 1. 6	- 0. 2
81 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか （「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計）	8. 5	- 1 4. 6	- 1. 5
82 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか （「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計）	5 2. 3	- 1 5. 7	(新規)

▼ 近隣等の小学校との連携について、次の項目で全国を大きく下回り、半数程度である。

「教育目標を共有する取組を行った。」

「教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った。」

「全国学力・学習状況調査の分析結果について、成果や課題を共有した。」

▼ ボランティア等による授業サポートを行ったりした学校の割合は、全国を大きく下回り、1割に満たない。

▼ 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った学校の割合は、全国を大きく下回り、1割に満たない。

▼ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行った学校の割合は、全国を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 引き続き、授業を行うに当たっては、次のようなことに心がけるようにする。

主体的な学習態度を育てるために

○地域の人材や教育資源を適切な場面で生かすことは、開かれた学校づくりに寄与するだけでなく、生徒が地域に誇りを持ったり、社会参画の意識を高めたりすることに大きく影響を与えるので、その在り方を保護者や地域との話し合いの場を持つなど積極的に取り入れることを検討する必要がある。

○近隣の小学校との連携は行事等の教育活動の合同実施にとどまらず、質的な充実をより一層図ることが必要である。具体的には、児童生徒の学力に関する課題や互いの学校の取組等を共有し、教育課程の編成に反映することが重要である。また、お互いの授業を見合った後、協議の場を持つような校内研修を実施し、学習指導の方法を共に検討・共有したり、児童生徒の家庭学習習慣の確立に向けた取組を検討・共有したりして、児童生徒の学びにより一層、継続性を持たせるような工夫をすること等が考えられる。